

第2回 野外体験保育有効性調査・検討委員会事項書

日 時 平成27年10月23日(金) 午後2時～4時
場 所 三重県四日市庁舎 2階 第22会議室

1 野外体験保育実態調査の概要について

資料1

2 野外体験保育の普及方策(案)について

資料2

3 その他

資料3

野外体験保育有効性調査・検討委員会 委員一覧 (五十音順・敬称略)

所属	委員名	備考
特定非営利活動法人 大杉谷自然学校	池田 直代	
大阪大谷大学 教育学部 教授	井上 美智子	
社会福祉法人一二三会 いずみ保育園 園長	宇佐美 直樹	三重県保育協議会 副会長
岐阜聖徳学園大学短期大学部 幼児教育学科 専任講師	木戸 啓絵	
学校法人ひかり学園 白子ひかり幼稚園 理事長	服部 高明	一般社団法人 三重県私立幼稚園協会 副会長

計5名

1 野外体験保育実態調査の概要について

●保育施設向け実態調査

1 調査対象

県内の保育施設（幼稚園、保育所、認定こども園）約650園

2 調査スケジュール

現在調査中 10月5日発出、10月28日締切 現在6割程度返答

3 調査項目

- ①施設の概要
- ②野外体験保育の内容と実施頻度
- ③子どもたちの様子
- ④園外での野外体験ができる自然環境（フィールド）の有無について
- ⑤保育における地域・保護者とのつながり
- ⑥野外体験保育に対するニーズ
- ⑦野外体験保育に対する課題

4 アンケート用紙

別紙1のとおり

●野外体験保育を実施する保育施設向け実態調査

1 調査対象

野外体験を基軸とした保育を実践している施設及び野外体験に多く取り組む保育施設

- ・菰野町 森の風ようちえん
- ・保育施設向け実態調査で野外体験保育の実施頻度が高い保育施設

2 調査項目

①保育ポリシー

②施設の概要

野外体験保育を進めるための特徴を調査する。

- ・常勤スタッフ数、経験年数

③野外体験保育の内容と実施頻度

実施している野外体験保育の内容詳細を調査する。

- ・野外体験保育のプログラム
- ・年間スケジュール 等

④保育における地域・保護者とのつながり

野外体験保育における保護者や地域の人々とのつながりについて調査する。

⑤野外体験保育に対する課題

野外体験を保育に取り入れるうえでの課題を調査する。

⑥安全対策・人材育成について

野外体験を基軸とした保育を進めるうえでの安全対策、人材育成の状況について調査する。

●野外体験保育を実施する保育施設に通園する子の保護者向け実態調査

1 調査対象

野外体験を基軸とした保育を実践している施設に子どもを預ける保護者

- ・菟野町 森の風ようちえんの保護者
- ・保育施設向け実態調査で野外体験保育の実施頻度が高い保育施設の保護者 2園程度

2 調査項目

①基本情報

- ア) 調査対象（5歳児）の子どもの性別
- イ) 出生順位
- ウ) 記入者
- エ) 同居家族

②子どもの変化

野外体験を取り入れた保育に参加していることで、保護者が感じる子どもの変化を調査する。(知的好奇心、感性、コミュニケーション、社会性など)

項目は、保育施設向け実態調査の問3で使用した、「子どもIKR評定様式」の項目を採用し、保護者の視点から当てはまる子どもの様子を見る。単純比較はできないことは前提としながら、保育施設向け実態調査結果との違いを見る。

※「子どもIKR評定用紙（簡易板）」（2010 独立行政法人国立青少年教育振興機構：元は橘直隆、平野吉直）

③大人の変化

野外体験を取り入れた保育に参加していることで、保護者が感じる自らの思いや変化を調査する。（子育ての楽しさ、子育てストレスの有無など）

ア) 子育ての状況

イ) 子育ての不安を話せる相手の有無

平成19年に文部科学省学術フロンティア共同研究プロジェクトにおいて、甲南大学で実施された「[第2回]子育て環境と子どもに対する意識調査」において未就学児を持つ保護者に対して行われた子育ての楽しさ、育児ストレスに関する項目をもとにすることで、この結果を参考にする。

3 アンケート用紙（案）

別紙2のとおり

野外体験保育の実態に関するアンケート調査 調査表

保育施設名:

施設の種類 幼稚園 保育所 幼保連携型
認定こども園

※該当するものに○を記入してください。

記入者 職・氏名:

連絡先(電話番号):

問1 施設の概要

あなたの園の基本的事項について教えてください (平成27年4月1日基準)

- 1 子どもの数
(園児の年齢毎の人数を記入してください。)
- | | | |
|--------|-----|---|
| 0～2歳児 | () | 人 |
| 3歳(年少) | () | 人 |
| 4歳(年中) | () | 人 |
| 5歳(年長) | () | 人 |
- 2 職員数
(男女別の人数を記入してください。)
※アルバイト・学生・インターンは除く
- | | | |
|----|-----|---|
| 男性 | () | 人 |
| 女性 | () | 人 |
- 3 施設の所在は、次のどれに最も近いですか
(右のいずれかに○印をつけてください。)
- | | | |
|--------------|---|----------|
| ア：中心市街地 | ア | } いずれかに○ |
| イ：郊外の住宅地 | イ | |
| ウ：田・畑が多い農業地帯 | ウ | |
| エ：漁港近くの漁業地域 | エ | |
| オ：森林が多い中山間地域 | オ | |
| カ：その他 | カ | |

※以下、年長のお子さん（5歳児）に対する保育を対象として回答してください。

問2 野外体験保育の内容と実施頻度

あなたの園では、保育の中で野外体験（自然とのふれあいや、自然の中での活動）に、どの程度取り組んでいますか。年長（5歳児）を対象に、次のような保育内容を、どの程度実施しているか、当てはまるものに○印をつけてください。（10項目すべてにお答えください）

↓項目（保育内容）	実施頻度→						
	ア： したこ とがな い	イ： 年に1 回程度	ウ： 1年に 2～3 回程度	エ： 半年に 2～3 回程度	オ： 月に 数回	カ： 週に 数回	キ： 毎日
1 室内で、自然を題材にしたお話を聞いたり、絵本を見たり、読んだりする。	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
2 園庭で、自然のもの（動植物や石・砂などの自然物）を使って、その場で遊ぶ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
3 園内で飼育栽培している動植物の世話をしたり、観察する。	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
4 園内で栽培している野菜や木の実を食べたり、飼育動物のえさにする。	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
5 園内・室内でオタマジャクシなど野外でとってきた小動物を持ち帰り、飼育する。	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
6 園外の自然に囲まれたところで、固定遊具や、ボールなどの道具を使って遊ぶ。	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
7 園外の自然に囲まれたところで、自然のもの（動植物や自然物）を使って、その場で遊ぶ。	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
8 園外の自然に囲まれたところで、一定範囲を自由に歩いたり、見たり、好きなことをしてゆったりと遊ぶ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
9 園外の田んぼや畑で作業したり、収穫したりしながら、その場でゆったりと遊ぶ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
10 園外の自然に囲まれたところで、飯ごう炊さんやお菓子作りなど調理をしてその場で食べる	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ

問3 子どもたちの様子

あなたの園の子どもたちの様子について、指導者の視点から、年長（5歳児）の子どもたちを全体的に見て、次の項目毎に、もっとも当てはまると思われるものに○印をつけてください。（14項目すべてにお答えください。）

↓項目	全体的に見た様子→						
	ア： ほとんど 見られ ない (1割 未満)	イ： 少しの 園児に 見られる (1割~ 3割)	ウ： 半数弱の 園児に 見られる (3割~ 5割)	エ： 半数強の 園児に 見られる (5割~ 7割)	オ： 多くの 園児に 見られる (7割~ 9割)	カ： ほとん どの園 児に 見られ る (9割 超)	
1	いやなことは、いやとはつきり言える	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
2	自分からすすんで何でもやる	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
3	だれにでも話しかけることができる。	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
4	だれとでも仲良くできる	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
5	だれにでも挨拶ができる	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
6	さまざまな情報から必要なものが選べる	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
7	人の話をきちんと聞くことができる	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
8	自分勝手なわがママを言わない。	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
9	自然の中のできごとに興味がある。	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
10	自分に割り当てられ得た仕事は、しっかりとやる	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
11	人のために何かをしてあげるのが好きだ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
12	部屋の中でなく、外であそぶのが好きである	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
13	少しくらい血が出ても平気である	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
14	いろいろな動物や虫を、手で触ることができる	ア	イ	ウ	エ	オ	カ

(参考：IKR評定アンケート)

問5 保育における地域・保護者とのつながり

あなたの園において、年長（5歳児）の子どもたちを対象とした以下の行事等に、保護者の方や地域の方が1年に何回程度に参加（協力）しているか記入してください。

1 保護者が関わる以下の行事等

① 全ての保護者が参加（協力）するイベント（例）運動会、夏祭りなど () 回程度/年間

② 一部の保護者が参加（協力）する保育等（例）遠足の引率補助、プールの当番等 () 回程度/年間

③ その他 ()

←上記以外又は、施設の運営を年間を通じて協力いただいている例など、回数で答えられない場合に内容を記入してください。

2 地域の方々が関わる行事等

① 園の開放による交流 () 回程度/年間

② 農業体験機会（田植え、稲刈り、芋掘り等）の提供 () 回程度/年間

③ 園外活動の見守り () 回程度/年間

④ 絵本の読み聞かせ、昔の遊びの指導 () 回程度/年間

⑤ その他 ()

←上記以外又は、施設の運営を年間を通じて協力いただいている例など、回数で答えられない場合に内容を記入してください。

問2 お子様の様子

1 あなたが、調査対象のお子様を現在の保育施設に通わせて、保護者の視点から見て、次の項目毎に、もっとも当てはまると思われるものに○をつけてください。(14項目すべてにお答えください。)

↓項目	様子→	ア： 非常に 思う	イ： まあまあ 思う	ウ： あまり そうでは ない	エ： ぜんぜん そうでは ない
1	いやなことは、いやとはつきり言える	ア	イ	ウ	エ
2	自分からすすんで何でもやる	ア	イ	ウ	エ
3	だれにでも話しかけることができる。	ア	イ	ウ	エ
4	だれとでも仲良くできる	ア	イ	ウ	エ
5	だれにでも挨拶ができる	ア	イ	ウ	エ
6	さまざまな情報から必要なものが選べる	ア	イ	ウ	エ
7	人の話をきちんと聞くことができる	ア	イ	ウ	エ
8	自分勝手なわがママを言わない。	ア	イ	ウ	エ
9	自然の中のできごとに興味がある。	ア	イ	ウ	エ
10	自分に割り当てられ得た仕事は、しっかりとやる	ア	イ	ウ	エ
11	人のために何かをしてあげるのが好きだ	ア	イ	ウ	エ
12	部屋の中でなく、外であそぶのが好きである	ア	イ	ウ	エ
13	少しくらい血が出ても平気である	ア	イ	ウ	エ
14	いろいろな動物や虫を、手で触ることができる	ア	イ	ウ	エ

(参考：子ども
IKR評定様
式)

2 今の保育施設にお子様を通わせて、お子様の変化について感じたことはどんなことですか。
(自由記載)

問3 あなた（保護者）の様子

1 子育てをされているあなたの気持ちや状況についておたずねします。

(1) 子育ての状況とあなたの気持ちについて、最も近いと思われるものに○をつけてください。

↓項目	様子→	ア： 非常に そう	イ： まあまあ そう	ウ： あまり そうでは ない	エ： ぜんぜん そうでは ない
1	毎日の子育てが楽しい	ア	イ	ウ	エ
2	子どもの成長している姿をみるのが嬉しい	ア	イ	ウ	エ
3	自分の生き方も大切にしたい	ア	イ	ウ	エ
4	子育てを通して、自分の世界や視野が広がった	ア	イ	ウ	エ
5	子どもに愛情を感じている	ア	イ	ウ	エ
6	子育てを通じて、自分も成長していきたい	ア	イ	ウ	エ
7	今の生活は自分らしい	ア	イ	ウ	エ

(2) あなたは普通の生活のなかで、以下のことがどれぐらいありましたか。最も近いと思われるものにひとつだけ○を付けて下さい

様子→	ア： よくある	イ： ときどき ある	ウ： あまり ない	エ： めったに ない	
↓項目					
1	子どもがいなければいいと思ったことがある	ア	イ	ウ	エ
2	子どもがだだをこねたり、我(が)が強いことで困ったり悩んだりしたことがある	ア	イ	ウ	エ
3	子どものことばの発達について気になったことがある	ア	イ	ウ	エ
4	子どもが育てにくい子だと感じて悩んだことがある	ア	イ	ウ	エ
5	子どもがよく病気やケガをするので困ったり悩んだりしたことがある	ア	イ	ウ	エ
6	近所に子どもを遊ばせるところがなくて困ったことがある	ア	イ	ウ	エ
7	近所に子育てについて話し合える人がいなくて困ったことがある	ア	イ	ウ	エ

2 今の保育施設にお子様を通わせて、ご自身の気持ちや子育てについての変化を感じたことはどんなことですか。(自由記載)

2 野外体験保育の普及方策（案）について

1 事業の考え方

有効性確認調査の結果報告を中心に、その有効性を広く周知した上で、今後は、県内において野外体験保育の実践を広く普及するため、当保育に興味を持つ保育施設を対象とした人材育成の支援や、施設・保育者の交流促進、野外体験保育の社会的認知のさらなる向上につながる啓発などについて検討を進めます。

2 方策の検討イメージ

(1) 人材育成の支援

野外体験保育に取り組もうとする保育施設に対し、モデル的に、先進的な取組を実践している保育者等を派遣し、中長期的に、それぞれの施設に応じた助言を行うことなどを検討し、野外体験保育を実践する人材の育成を支援

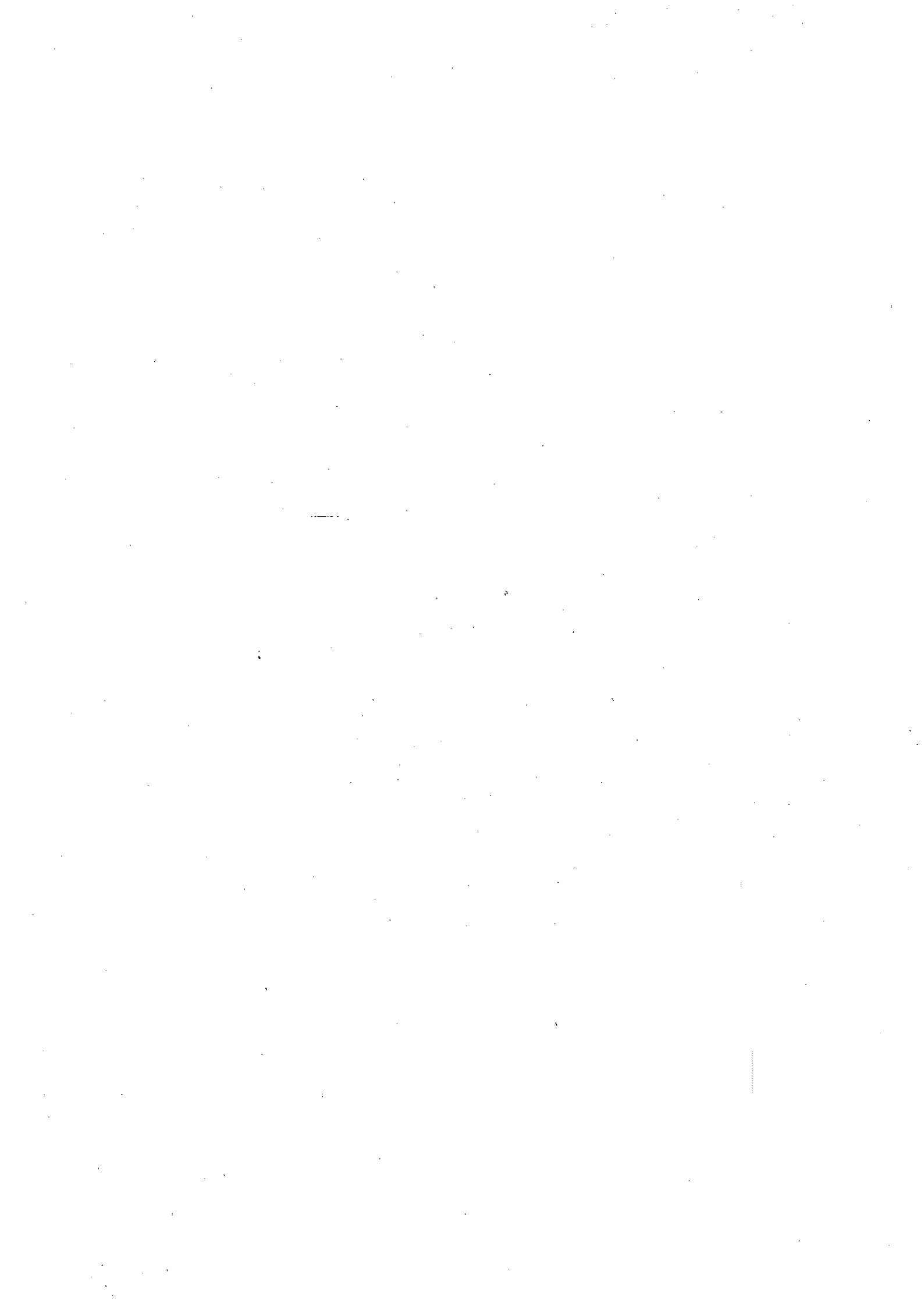
(2) 保育者同士の交流の支援

県内で、野外体験保育を実施している、またはこれからしようとしている保育施設の保育者等が参加し、野外体験保育のノウハウを学んだり、保育施設の垣根を越えたネットワークを広げて情報交換や連絡・相談ができるような交流の場の設置などを検討し、保育者同士の交流を支援

(3) 野外体験保育の啓発

一般の皆さんや、保育者、市町関係者等に、野外体験保育の実態や、その効果を広くPRするためのシンポジウムの開催などを検討し、野外体験保育に対する理解の促進や実践を前向き考える機運を醸成

また、野外体験保育の事例や効果などを分かりやすくまとめた啓発冊子の作成などについて検討



3 その他

(1) 調査・検討スケジュール

以下のスケジュールで検討を進め、報告書としてとりまとめます。

時期	委員会	調査	報告書
平成27年 9月	●第1回調査・検討 委員会 (今後の進め方)	●実態調査 (保育施設向け)	
10月	●第2回調査・検討 委員会 (現地視察を含む)	●実態調査 (野外体験保育を 実施する保育施 設・保護者向け)	
11月 ～ 12月	○調査・検討 (実態調査を踏まえ た有効性の検証と 普及方策について メールやヒアリン グ等で意見聴取)	●調査結果とりま とめ	●報告書作成 開始
平成28年 1月			●報告書とり まとめ
2月	●第3回調査・検討 委員会 (最終報告案の検 討)		
3月			●報告書公表

(2) 当面の動き (次回の開催を含む)

保育施設あての調査のとりまとめ結果や、これをもととした有効性について、各委員と連絡させていただきながら、報告書案を作成します。

その後、最終報告書案を検討いただくため、第3回調査・検討委員会を年明け2月に実施します。

野外体験保育 現地調査について

日 時 平成27年10月23日(金)

午前11時～午後1時15分

場 所 森の風ようちえん(三重県菰野町)

※ 現地集合 午前11時 (近鉄四日市駅午前10時30分集合)

1 森の風ようちえんの説明(15分)

2 保育現場の視察(60分)

- ・秘密基地
- ・田
- ・その他

3 園長を囲んで昼食(60分)

- ・ヒアリング

○ヒアリング事項について

①保育ポリシー

- ・施設が大切にしている考え方

②施設の概要

- ・常勤スタッフ数、経験年数

③野外体験保育の内容と実施頻度

実施している野外体験保育の内容詳細を調査する。

- ・野外体験保育のプログラム

プログラムはあるか、どんな決め方をしているのか、保護者意見の反映は？

- ・年間スケジュール 等

スケジュールはあるか、どんな決め方をしているのか、保護者意見の反映は？

④保育における地域・保護者とのつながり

野外体験保育における保護者や地域の人々とのつながりについて調査する。

- ・保護者は、どのような保育に参加しているか。頻度・内容
- ・地域の人とのつながりは（人的かかわり、施設（フィールドの提供、整備等）の関わり、有償・無償の別）

⑤野外体験保育に対する課題

野外体験を保育に取り入れるうえでの課題について

- ・運営費の課題、保育インフラ（園舎、フィールド）の課題、その他

⑥安全対策・人材育成について

- ・野外体験を基軸とした保育を進めるうえでの安全対策、人材育成の状況について

・安全対策に向けた取組（特に野外体験を行うことに照らして対策をしていることはどんなことか）、人材育成の点から特にOJT以外に、研修等への参加しているか。